

## 平成30年度第1回千葉県県民活動推進懇談会 開催結果概要

- 1 日 時 平成30年9月3日（月） 午後2時～午後4時
- 2 場 所 ホテルプラザ菜の花 4階 楨
- 3 出席者 鎌田委員（座長）、牧野委員（副座長）、渡辺委員、奥野委員、白井委員、  
小松委員、山崎委員、藤田委員 ※以上8名
- 4 議事の概要

「千葉県県民活動推進計画（平成30～32年度）」について

### 事務局説明

冊子「千葉県県民活動推進計画（平成30～32年度）」により説明。

### 質疑応答

- 鎌田座長 御説明いただきましたが、御質問、御意見等いかがでしょうか。
- 特に「県民活動」と「自己実現」については議論を重ね、P41にその思いが反映されていると感じます。こうした思いと政策が表現されているものはなかなかなく特徴的だと感じています。

### 【議題1】平成29年度の県民活動推進施策の実施結果について

### 事務局説明

「資料3」により説明。

### 質疑応答

- 鎌田座長 御説明いただきましたが、御質問、御意見等お願いいたします。
- 小松委員 P23ですが、オリパラに関わる中でプロジェクト結の取組は素晴らしいと思う。障害者の方が折り紙で箸置きなどを作成し、別のボランティアの方が訪日外国人に配るという取組。既に取組も始まっていて好評と聞いている。できれば障害者と外国人と一緒に折り紙をつくる場・機会があると更によい。
- P27ですが、指標をみると協働事業件数が増加していてよい。P63の市民活動への参加経験のアンケート結果では対象者によって結果にばらつきがあるが、「参加したことがある」が平成27年度は33%、平成29年度は32.8%で概ね3割になっている。今後はオリパラの動きが加速するので、なんとか50%を目指してほしい。千葉市も独自にボランティアを登録しており、千葉県でも都市ボランティアを3000人募集する。大会ボランティアも8万人募集しており、こちらに応募する県民も多いと思う。これらを弾みに活動への参加の流れを広げていけたらと思う。オリパラ事務局や千葉市とも連携し、一宮町など各会場自治体とも連携できる。オリパラが終わると機運は萎んでしまうと推察されるが、これらボランティア組織・体制がレガシーだと思うので頑張ってもらいたいし、自分も関

わっていききたい。

鎌田座長 大学からみたボランティア活動という、オリパラ対応については今後、期日が迫ってくる中で、試験日をどうするか、学事日程をどうするか各大学で検討が始まってくる。日程が決まる前に呼びかけるのがよいと思う。決まってからでは呼びかけづらくなる。検討中の時に大学と色々な協議ができていくとよいと思う。特に最近では大学内で連携が求められており、県内の私立大学で連携する「ちば産学官連携プラットフォーム」もあるので、そうした組織を上手く活用していく方法もあるかなと思う。

牧野副座長 オリパラを契機に自主的に誰かのために活動するボランティアが増えることは大きなことで、誘われる人も含め多くの人がボランティアの言葉を聞くことになり、体験もする。日頃、ボランティアをする私達にとっては“ポストオリパラ”として受け皿になる活動をどう組み立てられるかが重要となる。

次の地域づくりにどう登場していただけるかを今からきちんと計画をたてていかなければいけないと思う。主に学生の参加者はオリパラ活動後に社会に出る立場になるわけで、そこでの受け皿をどう作れるか考えて活動を組み立てていききたいと思う。

白井委員 2020年サーフィン会場として一宮が選ばれたが、地域としてどのようにお手伝いができるのか考えなければいけない。大会ボランティア、都市ボランティアとある中で町としてはボランティア分野になかなか入っていけない状況がある。町としてもまちづくり推進協議会を作り、提案をしても組織委員会の方でそれはだめです、と回答されるものもあり、厳しい。ただ、その中でも地元としてやれることを見出していく必要があると思う。今回、懇談会に出席できたこともあり、できるだけ2020年のオリパラボランティアに取り組みたい。ここでの意見も参考として考えていきたい。

## 【議題2】千葉県県民活動推進計画の進行管理について

### 事務局説明

「資料4」により説明

### 質疑応答

鎌田座長 御説明いただきましたが、御質問、御意見等お願いいたします。特に新たに参画いただいている委員はいかがでしょうか。年次報告書は毎年作成している。3年目にまた新たに計画を策定する流れとなっている。

## 【議題3】千葉県県民活動推進計画 平成30年度実施事業について

### 事務局説明

「資料5」により説明。

質疑応答

- 鎌田座長 御説明いただきましたが、御質問、御意見等お願いいたします。これからの事業ですので、アドバイス等もありましたらお願いします。
- 奥野委員 資料6の予算説明はこれからあるか。
- 事務局 参考資料として添付しています。
- 鎌田座長 審議ということではないが、可能な範囲で事務局が答えることはできると思う。
- 奥野委員 平成30年度予算は全体としては700万円近く増えているが、項目別にみると、オリパラ関連の予算が増えている、既存事業で減っており大きいものから言えば「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」「協働によるコミュニティづくりの普及・促進」「ボランティア参加促進事業の実施」がある。なぜ減ったのかを知りたい。達成度が「◎」となっているので、達成できたから減っているということか。
- 事務局 「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」は昨年度に平成30年度に使用するテキスト印刷まで完了したため予算を削減している。「ボランティア参加促進事業」は「次世代ボランティア人材育成事業」の新設に伴い、事業の見直しの中で減額したものです。「協働によるコミュニティづくりの普及・促進」は運営の工夫で減額しても現在のクオリティが維持できるためであり、引き続き事業の成果のクオリティを落とさず実施していきます。
- 奥野委員 事業一覧26、27について、県民生活・文化課の事業ではないが、事業者は決定しているか。
- 事務局 応募は終わり、決定していると思います。審査会は先日終わりましたので、今後、公表する流れになると思われます。
- 藤田委員 今年度からなので、検討違いのことを申し上げるかもしれない。新規事業がある一方で、2つほど事業が終了していると思うが、完了したから終わったということか。
- 事務局 終了した事業については、例えば18の「教育支援NPO・ボランティア等研究実践交流会」の教育庁の事業がある。昨年度は担い手育成にフォーカスして「ボランティア入門講座」「ボランティア実践講座」「スキルアップ講座」の3本で構成されていたものを「スキルアップ講座」を「交流会」に切り替え、ネットワークづくりに向けて実施するものです。そのように、スクラップ&ビルドとして発展的に事業をすすめたものです。
- 山崎委員 私も初めてなので的外れなことを言うかもしれない。実施目標のところの募集の人数が大きく異なる。これが多いのか少ないのかを知りたい。

- 事務局 最も大きい3000人は都市ボランティアの募集として掲げています。
- 研修会の人数については、それとは規模は異なりますので、過去の実績等を踏まえて設定しています。なお、安易な目標値ではなく、きちんと広報した上で達成する数値となっています。
- 補足ですが、資料として「都市ボランティア募集要項」を添付しています。千葉県全体で3000人となっていますが、各会場に配置していく中で合計値としての目標となります。
- 鎌田座長 成田空港配置のボランティアについて、千葉工業大学からも成田空港グループ会社に就職しており、各国からのお客さんに対応しているボランティアがオリパラ関係なくいるらしいが、高齢になってきている。そこに大学生を絡めてやりたいと成田空港会社から言っている。その人数は含まれているか。多分、成田空港会社と言っているものだが、できれば関連してやれば良いと思う。
- 事務局 空港案内ボランティアは確かに活動しています。都市ボランティアをきっかけとして、レガシーのことも触れられましたが、その後に平時から成田空港ボランティアに参加してもらえたらという用意は空港の方にもあると聞いています。
- 渡辺委員 コラボ大賞の審査委員もしているが、そこで昨年、子どもに関する団体があり、受賞された団体が事例発表をされていて、大変よいと思う。地域で活動された方の実践例が同じような悩みを抱えた人には大変参考になり、とっつきやすい。身近な問題として取り組める。ぜひ、こういうことも積極的に取り組んで欲しい。
- また、よく学生ボランティアが取り上げられるが、今、2020年に活躍できる人は誰かといえば大学1,2年生が中心。今、3,4年生は卒業や就職して実践は難しい。となると、高校生を視野に入れて、もっと積極的に取り入れていかないといけない。大学では3000人という数にかなりプレッシャーを感じているという話も聞いている。その辺も視野に取組が必要かと感じた。
- 鎌田座長 先ほどのコラボ大賞の成果を活かした取組について事務局から補足をいただければ。
- 事務局 先日、8月18日（土）に香取市で「協働まちづくりセミナー」を開催しました。コーディネーターとして鎌田先生に来ていただき、3つの事例発表者を行いました。うち2つは過去にコラボ大賞の受賞した四街道市役所から斎藤さん、「こうざき発酵道楽」から青木さんに発表いただいた。市には、これまでの地縁を活かした取組の蓄積があるので、それを踏まえつつテーマ型の取組を考える機会として情報提供できたと思う。なお、事例発表のもう1つは協働事例集「ちばコラボナビ」に掲載しているいすみ市で移住定住の取組をしている「いすみライフスタイル研究所」から高原さんに発表いただきました。事例ベースの学びも引き続き提

供していければと思います。

また、「コラボナビ」については昨年度に印刷製本したので、その活用を進めていきたい。また、「ちばコラボナビ」についても、過去の受賞者を軸とした情報提供の場づくりを考えられればと思っているところです。

鎌田座長 「ちばコラボナビ」というコラボ大賞の受賞者対象にどのように働きかけたかを聞き、他の方が活用できるサイトを作成いただいた。「ちばコラボナビ」は大変素晴らしくできていて、大学の演習でも使おうと思っている。実践的で色々なノウハウが詰まっている。

あまり発言してもいけないかもしれないが、1点。次世代ボランティアの担い手育成の部分について。大学が地域と連携をする「COC+」という事業がある。例えば、外房の人口減少が懸念される地域に大学生が伺い、色々と活動している。こういった取組は様々にあるが、最近の大学生は、都市ボランティアのこともあるし、本業の学業が忙しかったり、地域にも貢献しなければいけない等ある。そうした課題に対して、人口知能やICTの知見を活かして、離れていてもできるような、例えば関係人口の構築などの視点から、学生らしいボランティアの在り方等を言い出し、実際にやりだす人もいる。そういった取組も今後、ボランティアのジャンルとして入れていくのも面白いかなと思う。今の高齢者にはそうした先端技術は難しい面があるが、今の50代、60代前半はICT活用世代のため、地域のこうした方と大学生がコラボして、遠隔地の取組を進めていく等は面白い動きかと思うのでアイデアに入れていただけるといいかと思う。

では、平成30年度実施事業や全体的なことでも何かありますか。

小松委員 企業側の話でボランティア休暇などもおそらくオリパラの動きで検討し始めると思う。当行でもオリパラ対応に関するプロジェクトチームが出来た。今、大学3、4年生あたりが就職したときに、就職先の企業側でオリパラボランティアほか社員のボランティアに関わるための支援制度が整っていくのではないかな。オリパラを機にこのような動きが加速すればレガシーにつながると思う。企業との協働では、県の観光企画課が中心となって「おもてなし千葉」ということで、企業への積極参加を呼びかけている。店先や公園、海岸などを地域住民と一緒に綺麗にしようとのことで、取り組む企業を募集している。先日、イオンで決起集会が開かれた。県内経済6団体で組成された「みんなで応援!千葉県経済団体協議会」でもオリパラに向けて機運醸成やおもてなしに注力していこうとしている。企業が共生社会に向けて動き出そうとしている。社員も含めたネットワークができる可能性があるので、私の立場としては色々な会合で呼びかけていきたい。是非、県サイドでも、企業側への依頼、働きかけを積極的にお願したい。

あともう1点は市町村との連携がとても大事。今回配布された「県民活動推進計

画」は、まさに県民活動の手引きであり、分からないときに読むと非常に役立つ。最後の部分に市町村の取組状況一覧が掲載されているのはとてもよい。未表示の自治体についても、注意書きで「やっていない」のではなく「把握していない」と明記している。現場に行ってみれば、市民と行政が当たり前活動している。それを県の枠組みに沿って把握していない、というだけだと推察する。しかし、今回は「ない」ということで報告し、市町村で見ていただいた後は、この枠組みに沿っていないような活動の報告も是非していただきたいし、県でも新たに把握して欲しい。また事業計画に載っていないが、市町村の取組を上手く引き出して県から発信することを是非やっていただきたい。

鎌田座長 市町村と企業という話が出たので、館山市役所の藤田委員、商工会青年部として山崎委員いかがですか。

藤田委員 企業との連携や市町村の取組で県へ報告していない部分ということだが、例えば海岸清掃は毎年行っていて、そこに誰が来ているかはあまり関係なくやっているが、県民活動につながる形となっているかもしれないと感じた。

山崎委員 企業からという話ですが、まず千葉県商工会は40商工会議所あり、青年部は全体で1040名ほどいる。それぞれの地域で消防活動や地元のお祭りをボランティアで行っている人が多い。全国では4万7千人部員がおり、みんなで一斉に清掃活動を行っていたりする。さきほどボランティア休暇の話があったが、従業員を休ませてボランティアに行ってくださいという話まで行くと、普及、波及していない。人が多い地域ではないので、まず自分たちがボランティアする、ということでは止まっている方が多いと思う。うちの従業員に対しても自分の事業所前をみんなで清掃しようという程度はできるが、他のところへ、例えば一宮町さんまで行ってきてというところまではいかないのかなと。経営者層がやっているのが現状。自分達がボランティアをやっているのだから分かっていて、従業員まで波及させるところに企業は壁があると思う。

鎌田座長 一宮町関連でいかがでしょうか。

白井委員 一宮町のボランティア活動というと、ボランティアセンターが出来たのが平成24年。ボランティア連絡協議会は昭和38年頃からできているが、ここにきてボランティアセンターを立ち上げた要因というのは3.11等の災害があり、すぐに対応できるようにするため各種団体を集め作った。最初、町のボランティア推進委員会もあったが、庁舎が移ることもあり、ボランティアは社会福祉協議会ではないかとなり、町全体へのボランティアの拡がりについてなかなか理解が得られなかった。ここにきて2020年オリパラのサーフィン会場となり、各種団体からボランティア活動したいとの声があるが、老人クラブなどで活動できるか町に問い合わせてもボランティアは難しい状況となっている。町は対外的な関係もあるし、

都市ボランティアの関係も抱えているので、大変な状況となっている。ただ、せっかくオリンピックのサーフィン会場としてやるので、オリンピックが終わった後、どうするかが大きな課題だ。オリンピックをやりました、後は知りませんよ、ではない。オリンピックボランティアに参加した皆さんが今後、ボランティア活動を継続的にやれるかどうか。魅力的なボランティア活動の検討をしなければならないと思う。できるだけ手伝いできるようにボランティアセンターの会員の中で検討し、終わった後の町全体ボランティア活動をどう発展させるかを考えないといけない。オリンピックをやり、後は知りませんよ、という形だと町民からは何のためのオリンピックかとの声もある。今の状態では海岸地域は熱心に動いているが、街中ではオリンピックについては全く知らない状態と分かれている。町民全体をオリンピックに向けていくことが大事だ。オリンピックのためのボランティア、都市ボランティアで3000人を集めますが、終わった後もボランティア活動をやっているような活動を検討しなければいけないと思う。事務局が冒頭で触れられた岡山の2歳児を発見した魅力的なボランティアのような方が出てくるようになればいいかなと思う。

鎌田座長 藤田委員からは既に日常的な活動があると御紹介いただき、山崎委員からは社員に波及させていくことが課題だと問題提起していただき、白井委員からは町全体としてオリパラの契機を取組をどうオリパラの後につなげていくかの問題提起があった。関連して事務局からありますか。こういう気持ち、覚悟でやっていくというものがあれば教えて欲しい。

事務局 県内の行政のNPOボランティア関連事業について、県内市町村には、千葉市を除く53市町村で1350の事業があり、県事業でも160ほど事業がある。計画末尾で掲載している市町村データで把握できない範囲でそれだけの取組があるということであり、今年度の一つでもよい事例を吸い上げて発信できればと考えております。

企業の取組についても、県外を含めてみると、「SDG s」を契機とした企業からの社会課題へのアプローチ等、関心の高さを感じる。また、オリパラと「COC +」などの耳目の集まる取組がありますので、それらも踏まえた施策の推進が図れればと思っております。

オリパラのレガシーの部分で、終わった後にどうつなげていくかについては、今年度で1350の事業や計画掲載の「市町村基本データ」の先にある世界を調査して行ければと考えている。例えば、協働提案制度の枠組みの状況や市民活動支援センターの取組状況を調べていきたい。

ほか、大学における学生の県民活動を推進するような動きを把握していきたい。そうした網羅的なデータは把握できていないため、今年度に取り組み、今後のレガシーを考えるときにすぐに役立つ調査の年となればと考えています。

鎌田座長 県民活動がこのように立体的に見えてくるのはよいことだ。できるだけ協力していきたい。県民活動推進計画をベースとして色々なアイディをいただいたので、この議題はここまでとしたいと思う。それでは最後の議事、その他について何かありますか。

牧野副座長 先ほどの話で「県民活動推進計画」には「SDG s」が記載されていないことに気付いた。つくば市は「SDGs未来都市」に選定され、持続可能なまちづくりのための取組を推進していて、持続可能というと環境保全を連想するが、「SDG s」は福祉とか人権とか、まさに県民活動に直結することがテーマであり、2030年までに達成する目標として、この計画に書かれていないことを悔やんでいる。協働や共生社会と「SDG s」は直結するため、どこかで活動している方や市町村職員と基本的なことを学ぶ講演会やセミナーをできたらよいと思っているので、県も一緒に開催できればと思っている。

それから「ちばコラボ大賞」が8回目ということで提案ですが、来年度、渡辺委員のところ副賞を付けるのはどうか。協賛で千葉日報の福祉財団から出ると、レベルアップするのではないか。大賞にエントリーしようというのは行政が引っ張ってやってはいるが、副賞等があると自薦・他薦がもう少し活気づくのではないかと思う。御検討いただければと思う。

渡辺委員 今年度「千葉日報地域きずな賞」を設けていて重なってしまう部分があると難しいと思う。

鎌田座長 大学における「COC+」の取組を新聞で紹介してもらうなど、色々な連携でお互いが活性化できる形が見つかればと思う。必ずしも物ではなくてもよい。今、船橋市と千葉工業大学が包括協定を結んでいて、夏休みの宿題を募集して「千葉工業大学学長賞」を選ぶ。その賞品は小学生、中学生が大学の授業や実験を見学できること。そういう形も参考にいただければと思う。

それでは事務局にお返しします。